

生きる力

SHINGON

特集

「生きる力」とお大師さま
—遍路で感じる同行二人—

生きる力 SHINGON

Vol. 117



遍照山 光明院

さらなる発展を目指して

陽の光が燦々とふりそそぐ遍照山光明院の山門をくぐり足を踏み入れると、本堂周辺ではお参りの方々と住職が挨拶を交わす朗らかな声が聞こえてきます。決して広いとはいえない境内ですが、どこに目を移しても明るく清潔で、何ともいえない心地よい「善い気」が満たされています。ここ光明院を訪れると、誰しもがこのような感覚に包まれることでしょう。

埼玉県川口市、ＪＲ川口駅より徒歩十五分、川口市役所の目の前に光明院は位置しています。光明院はおよそ三百年前に創建されたと伝わっており、不動明王がご本尊さまとして祀られております。川口市史をひも解くと、往時は寺域が広く、本堂以外にもいくつかのお堂を有し、川口町（市制施行以前の町名）の中心で活躍された名僧たちが住職を勤めてこられたことがわかります。成人男性の等身大以上の、立派な不動明王がご本尊さまとしていらっしゃることからも、由緒ある寺院であったことが想像できます。

しかし、明治期より常住する住職がおらず、兼務されていたそうです。本宗のみならず、現在もさまざまな理由から、兼務や兼職をしながら寺院を護る住職も少なくありません。光明院も物理的にも経済的にも余裕はなかったものの、先代・先々代、そして歴代の住



光明院本堂 ご供養やご祈祷、写経会や經典読誦会など、地域に開かれたお寺として親しまれています。

職が懸命に真言宗の教えを礎に法灯をつなげ、檀信徒はその姿に応えるが如く尽力し、平成六年に現在の本堂が建立されました。この光明院にご縁をいただいた現在の荒井正道住職は、平成十六年に入寺し、また時を同じくして真言宗智山派の寺院として承認され、さらに平成二十一年には、新たに宗教法人を取得するなど、先代住職たちからの意志を受け継ぎ、光明院の興隆へ邁進します。

「感謝の塔」と「感謝仏」

本堂入り口の左手には、乳白色のお身体に優しい色合いで彩色を施された、大日如来さまを拝むことができます。この大日如来さまは、永代供養墓「感謝の塔」に埋葬された多くの方々のご遺骨から造立された「御骨仏」といわれる仏さまです。

荒井住職が光明院住職に就任されてから、分家や後継者不在などの理由で永代供養を希望される相談が数多く寄せられました。限られた境内地の中で永代供養墓を建立すべく、無縁墳墓改葬の手続きを行い、墓地を整理し、平成二十五年春に完成したのが、光明院永代供養墓「感謝の塔」です。その際、永代供養墓にただ納骨をするだけでなく、供養を通じてどのように宗祖弘法大師の教えを伝えられるかと熟考し、この身このままで仏に成

るという「即身成仏」の教えを視覚的に表す、つまり、亡き方々のご遺骨がそのまま仏さまとなり顕れる御骨仏を造立することに思い至ったそうです。その後、御骨仏で有名な大阪府の一心寺を始め、実際に御骨仏を造立した全国各地の寺院に住職自ら赴き、光明院復興の旗印として造立計画を進めました。

き、ついに御骨仏が光明院に入仏され、盛大な法要が催されました。多くの方の大切なご家族やご親族のご遺骨が一体の大きな仏さまとなり、目の前にお出ましいただけることに、檀信徒は深く感動し感謝を述べてくださるそうです。

「感謝の塔」開眼から十年が経った令和五年秋。たくさんの方々による協力をいた



① 本尊不動明王
光明院と檀信徒を見守り続け、今も昔も変わらずご加護をくださいます。



② 永代供養墓
「感謝の塔」
亡き方々が安らかにいられるよう懇ろにご供養が施されます。

「感謝」と「真心」のお寺

御骨仏や永代供養墓、そして光明院のホームページを覗いてみると「感謝」と「真心」という言葉が随所に見受けられます。この二つの語句について住職にうかがったところ、このようにお答えいただきました。

「感謝」については、私の心によく合った言葉です。両親が早逝し、兄弟や親族、そして檀信徒の皆さまに支えられて成長したと、さらには、自身も家族を持ち、妻をはじめ子供たちの支えがあつて今があると思っております。あわせて、ご本尊さまをはじめ、聖天さまや、多くの仏さまに導かれ御給仕させてい

ただれることに他ならぬご縁を感じ、心の底から感謝の念が湧き出てまいります。

「真心」は、感謝の塔を建立した際に総代さまからご提案いただいた言葉です。

御詠歌の戒めに「声もよし 節もよしとて 高ぶるな 真心なきは 下手とこそ知れ」という格言があります。やまもすれば祈りが当たり前になりがちな僧侶の心に対し顧みる言葉、さらには絶対的に必要な心、赤心を忘れてはいけないと肝に銘じるために、不動さまが総代さまの口を借りて与えてくれた言葉であると感じております。

親しみやすいその瞳の奥に備える強さと、心に湛えた情熱が節々に垣間見えます。ご両親を早くに亡くされ、悲しみと苦難を仏さま

とともに乗り越え、不動さまや聖天さまに祈りを捧げながら、光明院の復興に今なお心血を注いでおられます。

地域に開き、皆さまに「生きる力」を与える「心の安全地帯」でありたいと願う、誰よりも仏さまのご加護を体感している住職が護る光明院。ここは、どんなときでもあたたかく迎え入れてくれるお寺であり、何度も足を運びたくなるお寺でもあります。

その名のとおり、仏さまの光明で遍く照らし、私たちの進むべき道を示してくれるお寺であると、取材をしながら感じました。

お近くへお寄りの際は是非ご参拝ください。

(智山教化センター所員／池田裕憲)

撮影／清水 健



③700体のご遺骨で造立された御骨仏「感謝仏」
胎内には皆さまの過去帳が納められています。

写真提供／光明院

④光明院中興第一世 荒井正道住職と寺庭さま。
明るい笑顔で皆さまをお迎えくださいます。

写真提供／光明院



ACCESS アクセス

遍照山 光明院

〒332-0032 埼玉県川口市中青木1-9-29

車：首都高速道路川口線 東領家ICより約10分

電車：JR京浜東北線 川口駅より徒歩15分

今日の法語「^{かんじょう}^せ灌頂施」

法語解説

やま だ けんしん
山田 健真 (高知県高知市 竹林寺中)

揮毫

ゆう き ゆうじゅん
結城 祐純 (東京都日野市 薬王寺住職)

灌頂施

ただくことよりも差し上げること喜びを感じるのが、布施の心です。その布施の最上のものとして灌頂施があります。

これは他人の中の、自身でさえ気づいていない、長所を見つけ出し、知らせてあげること、世界に目を開かせてあげること、ひいては、自身の仏心に気づかせてあげることです。他人のことなど目もくれず、自分ばかりの生き方をしている人に、これができるでしょうか。

人にかける言葉や心は、自分によし、相手によしの、最上の布施^{おくりもの}になり得るのです。



「生きる力」とお大師さま ― 遍路で感じる同行二人 ―



昨年の令和五年は、真言宗の宗祖である弘法大師空海さまがお生まれになって二五〇年が経った記念の年でした。この勝縁を機に、お大師さまゆかりの地を参拝された方も多かったのではないのでしょうか。お大師さまゆかりの地は全国に多くありますが、特に四国八十八ヶ所霊場は、「遍路」と呼ばれ、年間十五万人以上が訪れます。この遍路に、毎年なぜこれほど多くの人が訪れるのでしょうか。

聖地を巡る

最近では「聖地巡礼」というと、映画やドラマなどの舞台になった地を、ファンが巡る様子がニュースで取り上げられています。私も、とあるドラマの撮影地を巡ったことがあり、そこにはドラマや映画の舞台となった場所が目の前に存在し、その舞台の中に自分がいるという不思議な感覚に包まれました。そして、演者が確かにここにいたという実感とともに感動を覚え、その作品をより好きになることができました。これが仏教や神話に関する聖地であったのならば、一層神秘的な感動を得られるのではないのでしょうか。

本来、聖地巡礼とは、宗教的に重要な聖地や聖域を巡り、礼拝することです。また、そうすることで、より物理的にも心理的にも信仰対象に近づくことができる尊い行いです。

近年では、日本国内のみならず、世界中からこの「遍路」が注目されています。

お大師さまゆかりの四国

四国は、お大師さまが生まれ、修行に励んだ地です。

お大師さまがお生まれになったのは、現在の香川県善通寺市です。市の名前にもなっている善通寺は、お大師さまご誕生ゆかりの寺院でもあります。

お大師さまは幼少より才覚にあふれ、当時の官僚養成機関であった大学へ入学されます。しかし、お大師さまは立身出世のために

学ぶ大学へ疑問を抱き、人々を救済

するためには仏教こそが必要であると

考えました。そして、大学を辞

し、仏道に進む決意をされます。そ

の修行の地として選ばれたのが、大

自然あふれる四国の地でした。

お大師さまがされた修行の一つに、



背中に「南無大師遍照金剛」と書かれた白衣を身にまとい、同行二人と書かれた笠を被り、札所を巡り参拝します。

「虚空蔵菩薩求聞持法」という修行があります。これは、虚空蔵菩薩のご真言を百万遍唱え、修行が成満すると、あらゆるものを記憶できる力を与えられるというものです。お大師さまは、現在の高知県室戸岬の御厨人窟にて、この修行を成満されました。

その後、密教を求め、四国を離れて唐（現在の中国）へと渡ったお大師さまは、恵果阿闍梨と出会い、千人以上の弟子を代表して密教の正当な後継者に選ばれました。お大師さまが密教の後継者となった理由には、元々天賦の才を持ち合わせていたことはもちろん、四国の大自然のなかでの修行によつて培われた、密教的な素養があったからではないでしょう

か。それはお大師さまの言葉からもみてとれます。

禽獸卉木は皆是れ法音なり

鳥獸草木の声はすべてみ仏の真理のことばである

『性霊集』「中壽感興の詩」

密教では、この世のすべては本来、大日如来のあらわれだとされています。鳥のさえずり、草木が風に揺れる音でさえ、大日如来の教えであり、説法であるという考えです。

同行二人

あなうれし

行くも帰るもとどまるも

我は大師と二人連れなり

「同行二人詠歌」

この歌は、遍路の道中で唱えられる御詠歌です。この歌の詠題でもある特徴的な言葉、それが「同行二人」です。この言葉は、遍路の道中いかなる時も、お大師さまはともに歩んでくださるという意味です。

遍路をする際、背中に「南無大師遍照金剛」と書かれた笈摺を羽織り、金剛杖を持ち、菅笠を被ります。その姿は、修行僧時代のお大

同行二人

からだの行い

手を合わせる

ことばの行い

「南無大師遍照金剛」を唱える

こころの行い

心にお大師さまを想う

真言宗では、からだ、ことば、こころの行いを、仏さまのありように近づけることで、お大師さまをはじめ、仏さまとともにあることを感じます。



雨の日も霧の日も、お大師さまと歩む同行二人の遍路道。信仰が息づく遍路の道です。

師さまを彷彿とさせます。そして、四国には遍路をする方々を「お遍路さん」と呼んで慕い、宿や食べ物、飲み物などを施す「接待」の文化が今でも残っています。これは、遍路という尊い修行をしている人々を敬うとともに、お遍路さんをお大師さまと重ね敬い、おもてなしをする尊い文化でもあります。

お大師さまは、高野山の奥之院でご入定永遠の禅定されたまま、いまも私たちを見守ってくださいます。不思議なことに、遍路中にお大師さまのお姿をお見かけしたという方もいます。そして、お大師さまの存在を感じた

ことで頑張れた、遍路の厳しい道のりを踏破できたという方も数多くいます。

遍路の旅路は、決して平坦な道のりではなく、時には険しい道のりを歩まなければなりません。辛い時、心が折れそうな時も、お大師さまは、ともに歩んでくださり、見守ってくださいます。

遍路をすることで、常にお大師さまがともにいらつしやるという同行二人を肌で感じる事ができます。これこそが、遍路をする大きな意義の一つであり、多くの人々を魅了する理由なのではないでしょうか。

お大師さまとともに歩む

遍路で体感できる同行二人は、その道中に限ったことではなく、わたしたちの日常においても感じられるものです。例えば、お仏壇の前で金剛合掌をして、ご宝号を唱え、お大師さまを心で感じる。その時にも、お大師さまはわたしたちとともにいらつしやいます。

人生において、楽しいこともあれば、辛いことも必ず訪れます。その時こそ、この同行二人を思い出し、「お大師さまは自分とともにいらして支えてくれている」と感じることに

目次

智山寺院探訪 遍照山 光明院	2
今日の法語（山田健真・結城祐純）	5
特集 「生きる力」とお大師さま一遍路で感じる同行二人	6
よくわかる『智山勤行式』（佐々木大樹）	10
智積院の修行生活（長谷川優）	12
梵字よもやま話（小峰智行）	14
日本の四季を切り取る十七文字（星野高士）	15
十巻章—真言宗の教えを紐解く—（駒井信勝）	16
暦のおはなし（上村正健）	18
ごくらくらくご（三遊亭竜楽）	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
寺院建築の心（菊池恭二）	24
総本山の便り	26
自と他の間にある利他（伊藤亜紗）	28
花に聞く 仏に聞く（佐々木隆元）	29
私のお大師さま ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko（内藤理恵子）	30
十善戒と生きる力（佐竹隆信）	31



お仏壇にお祀りするご本尊さまの一例

真言宗智山派では、お仏壇のご本尊さまとして、中央に「大日如来」、右に宗祖「弘法大師」、左に中興の祖「興教大師」をお祀りすることを推奨しています。

できたならどれほど心強いでしょうか。
 真言宗智山派では、わたしたちの目標「生
 きる力—仏さまに祈り、仏さまと出会う」を
 掲げています。遍路をとおして、また日常の
 なかでもお大師さまに祈り、お大師さまが常
 に自身とともにあることを実感すること
 で「生きる力」へと繋がっていくはずで

（智山教化センター所員 原 厳汰）

表紙

 悠久の稜線
長野県


夏の終わりに北アルプスは北穂高岳へ行く。山頂には北穂高小屋があり、ここが一番高いところにある山小屋で、眺望もよく日本のさまざまな山が見渡せる。北アルプス三大キレットのひとつ大キレットが、槍ヶ岳まで壮大に眺められるのは圧巻。キレットは外国語ではなく日本語。漢字で「切戸」と書く。

P5

 虹色の飛沫
岐阜県


日本の滝100選の一つ阿弥陀ヶ滝は岐阜県の名水50選でもあり東海一の名瀑。細長く真直ぐに流れおちる様は美しく、落差は60mと比較的控えめなのだがスケール感はそれ以上。午前中には滝に虹がかかり絵に描いたような情景とマイナスイオンをたっぷりと感じることができる。

撮影・解説／大島隆義

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力S.E.I.S.O.N」第一一七号 令和六年六月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行 定価一〇〇円(税込)
発行人／三神栄法 編集／智山教化センター 発行所／〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四 総本山智積院内 真言宗智山派宗務庁

智積院会館のご案内

洋室や和洋室など多様なお部屋で快適にお過ごしいただけます
(1泊朝食付 ¥9,000～ 宿泊税・消費税込／夕食別途 ¥3,300～ 消費税込)。



和室A



和洋室A

世間の喧騒を離れて、400年前から変わらぬ、朝のお勤めへのご参拝、僧侶による名勝庭園や長谷川等伯一門の国宝の障壁画のご案内など、非日常をぜひご体験ください。



夕食 ¥5,500

※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。



外観

お問い合わせ

宿坊 智積院会館
電話 075-541-5363

宿坊 智積院会館 HP ▶



ご予約は、お電話または智積院会館 HP から

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町 964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

宿坊 智積院会館

- ◆ 一泊朝食付きプラン(夕食別途) 9,000円から(宿泊税・消費税込)
- ◆ 夕食 3,300円から(消費税込)
- ◆ ご予約・お問い合わせ TEL 075-541-5363
- ・ JR京都駅よりバス約10分
- ・ 京阪電車七条駅より徒歩約10分
- ※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和6年5月現在、令和6年11月までのご予約を受け付けております。

青葉まつり(兩祖大師誕生会)

6月15日(土) 9時より(参拝無料)

暁天講座(早朝より一時間の講演)

8月1日(木)～2日(金) 6時より(参加無料)

写経のつどい(法話と般若心経写経)

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込 定員60名)

智積院阿字観会(真言宗の瞑想)

毎月8日もしくは12日

14時より(受付13時30分より)

※詳細はホームページをご覧ください。

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・)

要事前申込 定員20名

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日

6月7日(金) 15時より

※別院真福寺大施餓鬼会法要

7月8日(月) 12時より

8月8日(木) 12時より

やすらぎ寄席

於 本堂(木戸銭二千円)

6月20日(木) 談志一門会

7月18日(木) 三遊亭

両日とも18時30分より

※8月のやすらぎ寄席は開催無し。

真福寺阿字観会

6月25日(火) 15時より

於 本堂(無料・要事前申込・定員30名)

※7月、8月は開催無し。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院